

防衛費のリアル(5) ウクライナの泥沼

これまで、国民が防衛費の急増を、ある程度仕方ないと受け留める背景として、「時代の気分」と「安全保障環境の悪化」を考察しました。そして、その中で進められている沖縄、南西諸島の要塞化、とりわけ、普天間の辺野古移転が暗礁に乗り上げている実情について振り返りました

そもそも、中国や北朝鮮が攻めてきたどうする？ 強い国にするために、国内経済を犠牲にしても、外づらを要塞化しなければ心配で仕方ない、という受け留めって、理に適った現実的な国策なのでしょうか？ ここで、現在進行形で苦しんでいるウクライナのリアルを例に、頭の整理をしておきたいと思います。

ウクライナは、日本の 1.6 倍の国土に、人口 3,300 万人、名目 GDP は約 2,000 億ドル(日本の 1/20)で、欧州でも貧乏国の一つです。従って、十分な軍事力を持たなかったために、ロシアに攻め込まれたとってしまいがちですが、果たして本当でしょうか？。ロシアのウクライナ侵攻が始まる直前 2021 年時点でも、GDP 比 3.5% もの軍事費を使い、欧州で 5 番目の軍事大国でした。右図の通り、ロシアに比べると、1/10 の軍事費ですが、総兵力は 1/4、戦車も 1/5 と無視できない軍事力を保有していました。

従って、ロシアが侵攻に及んだのは、ウクライナの軍事力が弱かったためではなく、逆に、「目障りな軍事力」を有し、脅威に感じたからです。この点は極めて重要です。軍事力は抑止力というプラス面もありますが、目のかたきにされるマイナス面も併せ持つもろ刃の剣ということです。もし、ウクライナが分相応な専守防衛力しか持たず、先制攻撃はしない平和国家と宣言していたら、ロシアも脅威に思わず、ウクライナを NATO との緩衝地帯として慎重に扱った可能性が高いです。だてに分不相応の軍事力をもったために、4 年以上も戦乱が続き、兵士と民間人合わせて 10 万人が戦死、国民経済が疲弊する事態に至っているのは、何とも哀しいことです。

ウクライナ		ロシア
約 20 万人	総兵力	約 85 万人
69 機	戦闘機	770 機以上
約 2,600 両	戦車	約 1 万 2,000 両
約 6,800 億円	軍事費	約 7 兆 1,100 億円

時事通信の記事を基にYahoo!ニュース制作 (2022年3月)

(竹の台 西元)